

東亞同文書院教授
福田勝藏編

普通尺牘文例集

上海 東亞同文書院支那研究部發行

例言

本書ハ本院第二、三學年用教科書(毎週一時間)トシテ編纂セルモノニシテ、別冊商業尺牘教科書ノ姉妹篇タルモノナリ。

原來尺牘ノ一門ハ、邦人支那語學習者ニトリ最モ困難ナルモノトセラレ居ルモ、學習ニソノ道ヲ以テシ、ヨク文例ニ習熟シ、ソノ要領ヲ會得スレバ、決シテ然ク困難ナルモノニ非ズ。要ハ順序ニ從ヒテ文例ヲ消化シ、又力メテ習作ヲ試ムルニ在ルノミ。

坊間行ハル、尺牘書類ニハ、中國ニ行ハル、尺牘書類ヨリ拔萃セラレタルモノ多ク、ソノ文體ハ晦澁ニ非レバ卑俗、取材亦適切ヲ缺キテ邦人實用ノ參考トナスニ足ルモノ甚ダ少キニ鑑ミ、編者ハ、本邦人トシテ實用達意ノ尺牘ヲ自由ニ書キ得ルト共ニ、古來文學ノ一部門トシテ高キ價值ヲ有セル文學的尺牘ヲ充分ニ理解シ得可キ力ヲ養成スルヲ主眼トシ、卑近ニシテ實用ニ切ナルモノヨリ、比較的高尙ナルモノニ至リ、努メテ多方面ニ亘リテ取材編列セリ。本書ノ一半ハ、頭初前教授清水董三氏編纂シ、後編者ノ増補セル文例集第一

輯及ビ編者ガ前講師齊鐵恨氏ト共編セル同第二輯ニ採リシモ、他ノ一半ハ概ネ編者ガ今回
新ニ創作或ハ翻譯セルモノナリ。新作ノモノノ一部ニツキテハ、本院講師靳雁賓氏ノ校閱
ヲ經タリ、誌シテ以テ謝意ヲ表ス。

昭和十二年五月十五日

編者識

普通尺牘文例集 目次

寫信須知……………一

上篇

名片文例

一 介紹……………	二五
二 約會……………	二六
三 復片(一)……………	二六
四 復片(二)……………	二七
五 改期約宴……………	二七
六 約宴復片(一)……………	二八
七 約宴復片(二)……………	二八
八 約宴復片(三)……………	二九
九 不遇留片……………	二九

一〇 送禮……………	三〇
一一 謝片……………	三〇
一二 辭行……………	三一
一三 賀年(一)……………	三一
一四 賀年(二)……………	三一

便條文例

一 約人相商……………	三三
二 答覆……………	三三
三 約人談話……………	三三
四 答覆(一)……………	三三
五 答覆(二)……………	三三
六 召友商晤……………	三四
七 答覆……………	三四

八	約友商推	壹	二四	答覆(二)	四一
九	約人談話	壹	二五	贈物(一)	四一
一〇	答覆	壹	二六	答覆	四一
一一	約期訪謁	貳	二七	贈物(二)	四三
一二	約期造訪	貳	二八	答覆	四三
一三	不晤留字	貳	二九	贈照片	四三
一四	答覆	貳	三〇	答覆	四三
一五	不遇留條	貳	三一	借錢(一)	四三
一六	答覆	貳	三二	答覆	四四
一七	約人便飯	貳	三三	借錢(二)	四四
一八	答覆(一)	貳	三四	答覆	四五
一九	答覆(二)	貳	三五	借書(一)	四五
二〇	約友小酌	完	三六	答覆(一)	四五
二一	答覆	完	三七	答覆(二)	四六
二二	約友酒叙	四〇	三八	借書(二)	四六
二三	答覆(一)	四〇	三九	答覆	四七

四〇	借物	四七
四一	答覆	四八
四二	還書籍	四九
四三	索還書籍	五〇
四四	答覆	五一
四五	造訪不遇	五二
四六	答覆	五三
四七	約人看戲	五四
四八	答覆	五五
四九	約人看戲	五六
五〇	答覆(一)	五七
五一	答覆(二)	五八
五二	失約道歉	五九
五三	問人行期	六〇
五四	答覆	六一
五五	介紹友人	六二

五六	介紹朋友	五七
中篇		
信函文例		
一	約人相會	五五
二	答覆	五五
三	約人會面	五五
四	答覆(一)	五七
五	答覆(二)	五七
六	約人飲宴	五八
七	答覆(一)	五九
八	答覆(二)	五九
九	答覆(三)	六〇
一〇	約友酒叙	六〇
一一	答覆	六一
一二	請客飲宴	六二

一三	約請春宴	三
一四	答覆(一)	三
一五	答覆(二)	三
一六	約友同行	三
一七	答覆	三
一八	改期同行	三
一九	答覆	三
二〇	求寫喜聯	六
二一	答覆	七
二二	託友招股	七
二三	答覆	六
二四	問詢開市	六
二五	答覆	六
二六	問在家時刻	七
二七	答覆	七
二八	問動身日期	七

二九	答覆	七
三〇	問耽擱日期	七
三一	答覆	七
三二	問勾留日期	七
三三	答覆	七
三四	問友旅寓	七
三五	答覆	七
三六	問輪船出口日期	七
三七	答覆	七
三八	託帶衣服	七
三九	答覆	六
四〇	託買書籍	六
四一	答覆	六
四二	介紹會見	六
四三	約訂會見	六
四四	約友接見	八

四五	介紹朋友	八三
四六	介紹商人	八三
四七	介紹同學	八三
四八	請寫介紹書	八三
四九	託友介紹	八四
五〇	謝介紹并贈禮物	八四
五一	介紹會見並贈書籍	八五
五二	接書答謝	八六
五三	答覆會見	八六
五四	託人轉約	八七
五五	覆託轉約	八七
五六	再函懇託	八八
五七	覆再懇託	八八
五八	三函懇約	八九
五九	覆已約妥	八九
六〇	謝代約并告定座	九〇

六一	歡迎參與紀念典禮	九〇
六二	答覆(一)	九一
六三	答覆(二)	九一
六四	歡迎參觀運動會	九一
六五	歡迎參觀展覽會	九二
六六	歡迎參與畢業禮	九二
六七	邀人聽講	九三
六八	通知遷移	九三
六九	催回信	九四
七〇	催寄所購物品	九四
七一	索閱書目錄	九五
七二	購書	九五
七三	訂報	九六
七四	訂閱雜誌	九六
七五	報告訂閱滿期	九七
七六	請批評著作	九七

七七 收條……………九

下篇

一	通知遊歷……………	九
二	通知遠行……………	九
三	便道訪友……………	一〇
四	答書歡迎……………	一〇
五	旅行報告……………	一〇
六	答覆……………	一〇
七	旅行參觀……………	一〇
八	謝友招待……………	一〇
九	遊歷道謝……………	一〇
一〇	謝人招待……………	一〇
一一	歸來道謝……………	一〇
一二	託友招待……………	一〇
一三	答託招待……………	一〇

一四	託友照拂……………	一〇
一五	宴請客商……………	一〇
一六	辭謝宴請……………	一〇
一七	公忙失讌……………	一一
一八	追候友人……………	一一
一九	不辭而別……………	一一
二〇	歸後道念……………	一二
二一	別後致函……………	一二
二二	與友叙別……………	一二
二三	復友話別……………	一二
二四	約友公餞……………	一二
二五	答允公餞……………	一二
二六	賀友遊學……………	一二
二七	贈送土物……………	一二
二八	答覆……………	一二
二九	送行餽贈……………	一二

三〇	答謝餽贈	一二〇
三一	往來餽贈	一二一
三二	贈友摺扇	一二三
三三	答謝贈扇	一二三
三四	求人寫字	一二三
三五	謝贈法書	一二四
三六	詰問失約	一二五
三七	答述失約	一二六
三八	託人薦事	一二七
三九	答求薦事	一二八
四〇	託友轉薦	一二九
四一	答易轉薦	一三〇
四二	答允轉薦	一三〇
四三	推薦會計	一三一
四四	推薦職員	一三三
四五	薦用僕役	一三三

四六	謝薦夥友	一三三
四七	答友託事	一三四
四八	致賀升任	一三五
四九	謝賀任職	一三六
五〇	致賀開幕	一三六
五一	謝賀開幕	一三六
五二	慰問病人	一三八
五三	答覆	一三八
五四	慰問病人	一三九
五五	答覆	一四〇
五六	慰問病人	一四〇
五七	答覆	一四一
五八	慰問病人	一四二
五九	答謝問病	一四三
六〇	病癒出院	一四三
六一	慰問隣近失火	一四四

六二	答覆	一四
六三	答覆	一五
六四	慰人營業虧耗	一五
六五	慰問失意	一六
六六	答謝慰問	一七
六七	賀年(一)	一八
六八	賀年(二)	一九
六九	賀年(三)	一九
七〇	賀年(四)	二〇
七一	新年致候	二〇
七二	致賀夏節	二一
七三	暑期致候並約同遊	二二
七四	致賀秋節	二三
七五	年節送禮	二四
七六	慶賀喜事	二五
七七	賀友生子	二五

七八	答覆	二五
七九	弔唁親喪	二五
八〇	答謝弔唁	二六
八一	謝人幫助	二六
八二	酬勞致贈	二六
八三	饋銀酬勞	二六
八四	答覆	二六
八五	向友請教	二六
八六	朋友問候	二六
八七	答覆	二六
八八	敬候師長	二六
八九	致先生述久別	二六
九〇	覆函	二六
九一	致前輩道景仰	二六
九二	覆函	二六
九三	商請修稿	二六

九四 致謝修改作品	七
-----------	---

(附 錄)

帖子式例

一 請帖	七
(一) 請酒帖	七
(二) 結婚請酒帖	七
(三) 祝壽請酒帖	七
(四) 子女彌月請酒帖	七
(五) 移居請酒帖	七
二 催帖	八
三 計文	八
(一)	八
(二)	八
四 謝帖	八

送禮式例

一 封套	一八三
二 婚禮贈物分類表	一八五
三 喪禮贈物分類表	一八六
四 雜事送禮名目表	一八八

MG
H152.3
75

普通尺牘文例集

東亞同文書院教授 福田勝藏編



寫信須知

封筒の書き方

封筒は普通に「信封」「信筒」と云ひ、近來は「封筒」と云つても通ずる。

支那封筒の封面は三部に分たれ、中央は「簽條」と稱し紅紙を貼付し或は赤く染め或は中央を全部紅色とせず紅線を以て圍んである。此の簽條には受信者の姓字



稱呼と台啓等の語を豫め字配りを考へて天地を餘り空けぬ様に書く。稱呼と台啓の間は都合により少し位空くも差支ないが、台啓を吊り上げて下を空けてしまふのは最も見苦しい。受信者の住所は右側に上二三字を空けて書き下し、發信者の地址及び姓氏は左側に低く書くを常とする。

(二)姓字と稱呼

支那の書信では封筒面の記載は受信人に向つて對稱するにあらずして、送信人に命ずる觀念を以て認めらるゝものであるから普通の場合必ず姓と、字或は號とを併せ書く可きである。姓を書かぬのは失禮

であると共に、自分の子か孫或は僕婢に對する時の外、名を用ふることを得ない。中國に於て相手方の名を呼び得るものはそれ等の長輩丈であり、從つてそれ以外の人が他の名を呼ぶことは禮を失するの甚しいものであるからである。

封面稱呼は一般に「先生」を用ふ可く、仁兄大兄等の文字を用ふるを得ない（封面記載の根本觀念による）。官職ある者なれば私信に非ざる限り姓の下に「何々長」と認めてよい。機關團體に宛つる場合は機關名團體名を其儘用ひて別に稱呼を附けぬ。唯商號なれば「某々寶號」「某々寶莊」等と書くを例とする。

二台啓

稱呼の下に用ふる「台啓」の類語には左の如きものがある。

台啓 台展 大啓 玉展 升啓(平交に)

文啓(學者文人に)

升(升啓の略) 啓(台啓 收啓の略)

手啓(晩輩の親厚なる者に)

查收 收拆 收覽(晩輩に)

鈞啓 鈞閱(官職權柄ある上長に)

勛啓 勛閱(本來は高級官吏にして勲位あるものに)

用ひたるも今は拘泥せず一般に官吏に)

公啓〔公署及び機關團體に〕

同啓 均啓〔二人以上に〕

素啓 禮啓〔服喪中の者に〕

婦人に對しても同じく此等を用ひてよいが、尙〔尙〕
啓の如き特に婦人に限り用ひらるゝものもある。

近來は諸事簡便を主とし〔台啓〕の如きをも略し、單
に〔某々先生〕のみ書くものもある。

〔台啓〕の啓は披見の意味であるから開封の書信、及
明信片には之を用ふるを得ない。此等には〔台閱〕〔閱〕
〔台升〕〔升等〕が用ひられる。

（三）緘

發信者は其地址と姓或は姓名とを記し、其の下に「緘」(俗字に「緘」、櫛等あり)の字を書くを普通とす。同様の意味で「拜上」「敬緘」「謹上」「尊長に」「東」「緘寄」(一般に等を用ひてもいゝ。又他人に托する書信には「緘託」「拜干」「拜懇」等が用ひられる。

緘は封緘の意味であるから開封の書狀及び明信片には之を用ひず、此の意味を表すには「寄」「寄上」等を用ひる。

(四)受信者地址

「上海」「漢口」の如き大都會には省名を附するを要せず、發信者と受信者と同一地域内に在る場合は「本埠」「本城」

「本市」「本鎮」等と略稱するを普通とする。

(五)日附

日附は從來は封筒の裏面の中央に書いたものであるが、近來は發信者の「緘」字の下右寄りに小さく某月某日或は左右に振り分けて某月某日と書くものが多い様である。

(六)返事の要求其他

封筒面に「折返し御返事頂き度し」との意味を示す場合には「鵠候回玉」「埒候回音」「立候回示」「候回玉」「候福等何れも回」「福等の字を抬頭して左邊の上部に書く。物品を要求するには、候回件受取證を要求する場合には

「候收條等」と書いてもいい。

「掛號」「雙掛號」等の文字或は「如無法投遞即退回上海東亞同文書院」宛先不明の場合は上海東亞同文書院へ御戻し被下度等の文字も此の部分に書かれる。

(七)封背

封筒の背面には從來は上下の綴目に一字づゝ分けて「護封」「謹封」「墨鎖」「平安」「飛鴻」「剖鯉」の如き文字を書き、眞中の騎縫上に月日を記したものであるが、現今では之を省略したものが少からず行はれてゐる。

封筒書方の例を示せば左の如し。

(二)直接郵送の場合

本埠南京路十八號
太陽公司

葉景良先生台啓

郵票

東亞同文書院福田絨四月一日

南京北門橋焦狀元巷卅六號

汪湘晨先生台啓

掛號
上海姚主教路志慶坊十三號齊寄

(二)間接郵送の場合

上海徐家匯姚主教路志慶坊十三號
齊鐵恨先生轉交

程 文 輔 先 生 台 閱

郵 票

北平特別市教育會傳緘四月二日

北平西郊門頭村
天義成寶號收轉北辛莊

宋 初 晴 先 生 台 啓

雙掛號

上海虹橋路四號鄭楠

(三)友人に托し受信者の地に携行し僕役に命じて送らしむる場合

敬祈
吉便帶至北平飭送

周子遺先生啓

高山峰吉拜干

敬頌
飭交

趙之望先生收展

田中稻造緘託二月一日

(四)友人に托し手づから交付せしむる場合

二三

敬懇
袖交

錢 立 文 先生

岡 上 託

敬祈
面交

鳳 宇 翔 先生 收 閱

水田耕作拜懇

(五) 僕役を遣はして送る場合

去 信

專送孝友里

朱 紹 棠 先 生 升 啓

鵠 候

回 件

井上行雄 緘四月五日

回 信

復 呈内文稿一份

井 上 先 生 簪 收

朱 緘 即日

信 去

專送 外紅樓夢一部 同文書院職員住宅	
鈴木教授文啓	瑟夫上

信 回

回呈 貴上	關瑟夫先生	鈴木康友藏
----------	-------	-------

(六)同封して送る場合

附呈 第四科	孫航宇先生	福田勝藏
附致 中華學生部	李健飛先生 閱	名内詳

用箋

支那では八行紙と云つて八行紅罽の信箋を用ひるのが普通である。邦人の喜ぶ淺黄色の罽の入つたもの若くは此の地色の用箋は訃報、悔禮狀など服喪中の人が用ふるものであるから誤用して笑はれてはならぬ。

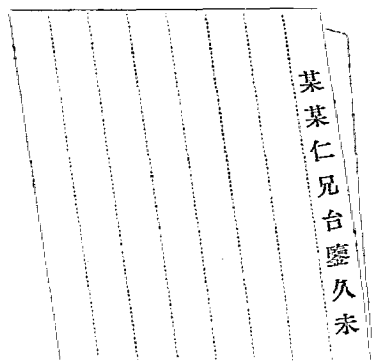
書體は楷書或は行書で丁寧に認める可く、豫めよく行の配置を考へて成る可く二枚の用箋に空行を残さぬ様又一字で一行にならぬ様注意して認める。簡單なものは一枚でも、長いものは四枚以上に亘るも差支ないが、只三枚にはならぬ方がよい。三凶四吉五平安とて三の數を嫌ふのは支那の習慣であるから。

信箋の疊み方には「對摺式」「兩摺式」等あり。左の如し

(一)對摺式(其「先横後直」)

平交の者に用ふ

先づ横に折り



次に縦に折る

某某仁兄台鑒久未

對摺式(其二先直後橫)

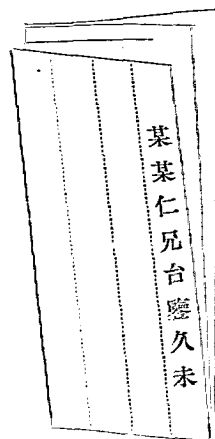
先輩尊長に用ふ

先づ縦に折り

某某先生台鑒久未奉

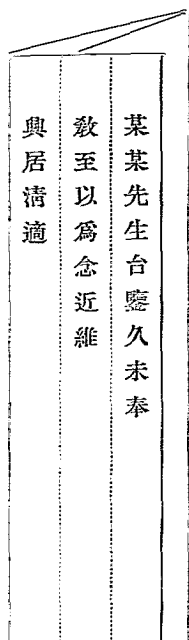
教

次に横に折る

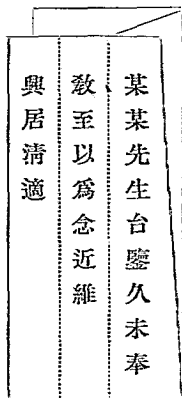


二二兩摺式

初め二行丈け折り次に六行を對摺とす

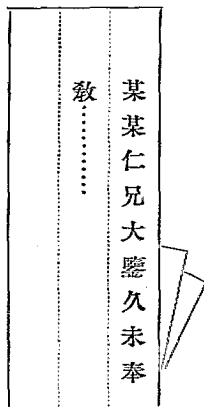


次に横に折る



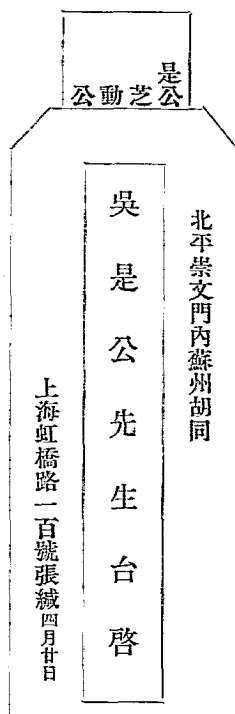
(三) 打千式

對摺式にても兩摺式にても封筒の長短に依り次の如く折りて可なり
之を打千式といふ



封筒に裝入する法

起首稱呼を封筒の正面に向けて裝入すること



最も注意す可き事は文字を外にする事である。文字を内にして疊むことは不吉として忌み嫌はれる。

抬頭法

支那書簡文では相手及相手側に關したことを云ふ語

は必ず之を尊敬して行を改めるか或は一字を空けて書く。これが所謂抬頭法である。

抬頭法には從來三抬、雙抬、單抬、平抬、空格等の諸法が行はれたが、現在は三抬、雙抬は漸次廢れ特殊の場合の外は使はれない。

單抬法 宛名を行頭一字分抬げて書く、相手のことを云ふ語は行を改める丈にする。

平抬法 宛名を抬頭せず、相手のことを云ふ語は行をかへて始から終まで行頭を平に書くもので現今政界學界等にあつては交誼の親疎に拘らず多くは此の方法が用ひられてゐる。

空格 相手の稱呼と相手のことを云ふ語の上を一字分空けて書く、これを空格と云ひ略式の場合に此の方法が用ひられる。又書中に第三者の姓名等が出て來た時は尊長平輩を論ぜず空格とするのが普通である。

尙此處で注意を要することは、相手の稱呼我兄、吾弟等の私の字や吾の字を抬頭し或は空格とするものが往々中國人中にさへ見受けられるが、これは大いなる誤で、學者の物笑となる所である。吾或は我は自己を指して言ふものなれば宜しく只兄字或は弟字を抬頭或は空格とす可きである。

尙抬頭法と相對して注意す可きは自己及び自己側に

屬するもの、稱呼例へば弟、小某、舍某、敝公司、敝號等の文字は、小さく行の右側に片寄せて書き謙遜の意を表はすのが普通である。是等を謙遜したつもりか上を空けたものを往々見受けるが、上を空けては空格となつて、却つて自分を尊稱したことになる。

上篇

名片文例

一 介紹

茲敬介紹 關瑟夫先生懇乞
延見爲禱此致

福田弟勝藏頓首

雁賓老兄執事

東亞同文書院

四月一日

二 約會

午後有暇請
駕臨一叙此致

關弟宗

瓚謹白

山本學兄執事

瑟夫北平

三 復片(二)

承示已悉即行遵赴此復

弟山本

治頓首

瑟夫仁兄閣下

四 復片(二)

瑟夫老兄大鑒

山 本 弟 治鞠躬

頃有要事不克赴約待諸明日如何

五 改期約宴

鈴木先生

弟今日因要公赴寧擬改期宴會甚歉專頌

靳 鴻

早安

四月十八日

六 約宴復片（二）

藤井先生清吉

馬弟

衡叔平頓首

辱承

寵召當去奉陪也此覆卽頌

七 約宴復片（三）

俗冗蠅集不克奉陪心領謝謝勿復
卽呈

弟馬

衡叔平鞠躬

藤井先生台鑒

八 約宴復片（三）

四月十五日承蒙 寵招因病未能
奉陪心領謹

謝 王 世 英

仲 汕 福 建

九 不遇留片

奉訪不值悵甚約二小時後再來

程 文 輔

福田老兄垂管

一〇 送禮

東鄉 義先生

曹制 玉

林相如

奉呈土物乞
晒納是幸

一一 謝片

厚賜謹領謝謝
相如老兄閣下

東

鄉

義

呈

貴上先生

一二 辭行

搭輪北行倉卒不及走辭
謹此片上藉頌

王

化

坂本先生台安

鈞陶北平

一三 賀年(一)

恭賀

新禧
福田勝藏鞠躬

一四 賀年(二)

恭賀

新釐並候

春祺

王

化鞠躬

便條文例

一 約人相商

有要事相商得閒請移 駕敝舍一叙不勝盼切專此順請

樂山先生近安

丁起吾謹啓 日

二 答覆

接讀來 示敬悉弟準於下午二句鐘走謁不誤此復即問
刻佳

夢松老兄

李世民謹覆 卽日

三 約人談話

刻因有話欲談希即 撥冗一臨爲荷此上

大公先生

文 超便啓 日

四 答 覆 (二)

適客在座未便即時奉訪乞 少待如何謹覆

致遠先生

王煥功便覆 卽時

五 答 覆 (二)

示悉奈以感冒未便遵 命果須 兄教尙希 移玉爲荷此
覆

致遠先生左右

王煥功上卽日

六 召友商晤

頃 某兄來舍有要事須與吾 兄面叙祈即 駕臨萬勿延
却是爲至要此請

孟羣老哥刻安

弟丁旭東便泐 日

七 答 覆

示悉弟適患小疾臥病在床致不克應召 某兄如急欲一談
可請偕同來舍方 命之處萬望原諒此復
紹彭老哥台鑒

弟王蔭泰伏枕 日

八 約友商榷

茲啓者日前承蒙 惠臨奈以其時適往 李祺先生處致失
迎迓抱歉之至茲因有事欲與 足下商酌擬請 大駕於明
日來舍一行千懇是荷順請

楚洲仁兄台安

弟王 鑑肅條 日

九 約人談話

茲有要事奉商務請於明日下午六時稍待片刻以便趨前面
商一切專約順頌
日安此呈

子修老兄台鑒

弟 袁達清謹啓 月 日

一〇 答 覆

奉到 手示理當遵時候 駕惟明日有事外出不能按時回寓只得於後日午前十時在舍恭候敬祈 屈駕一臨爲盼此復

達清老兄左右

弟 彭學勤謹復 卽 日

一一 約期訪謁

茲有面懇之事未悉 閣下何時得暇可以 賜見敬祈 示知以便趨謁 崇階是所至禱專肅敬頌

劍華先生公綏

弟 尹福保謹白 月 日

一二 約期造訪

敬啓者茲有事奉談擬於明日下午二時半過訪屆時是否有暇至祈 示復爲荷此頌

季上先生日安

弟甘德雲謹上月日

一三 不晤留字

竭誠趨謁適值 公出不晤爲悵茲於明日此時再來奉候務
祈 俟我爲感此請
安之先生即安

弟朱斯蒂留條月日時

一四 答 覆

留字敬悉 枉駕罪甚本當俟 兄奈此刻已先與某友約不
得不往不情之處敬請 鑒諒後日定當趨 府負荆請罪也
此致

榜生先生

江 馨謹覆 登下

一五 不遇留條

拜謁不遇悵然 某君囑轉奉一函已留 府上矣

守恭兄鑒

弟江一平留上日時

一六 答 覆

穎君老兄鑒今早失迎罪甚 某君函已收閱矣謝謝今晚六時尙希過我因有面談要件也千萬

弟伍守恭上言 日

一七 約人便飯

適有客來擬留便餐 兄肯賞光陪飲數杯耶千萬千萬此上淵若先生

弟何 嘉謹約 日

一八 答 覆(二)

之碩老兄弟拙於酬應陪客不敢惟素性饕餮決不後人一笑

更衣後當即趨飲也

弟朱 淵謹覆即日

一九 答 覆（二）

刻有要公亟須待理雖有佳肴其奈口福未修何可惜可惜謹復

之碩先生

弟淵 若手覆即日

二〇 約友小酌

有友自遠方來餽我美酒數罍茲准於五日謹備便酌弟親手入厨調羹作湯敬請吾兄寵臨一醉勿却是幸此致
大翼仁兄足下
弟沈竹君手上日

二一 答 覆

辱承 召飲本當叨擾一快朵頤適是日舍親某君假座某處

禮堂結婚囑任司儀誼在至親情不可却 足下盛意惟有心
領抱罪之處務祈

原宥是荷此致

延法仁兄大鑒

弟朱振鵬謹覆卽刻

二二 約友酒叙

啓者前承友人約宴於武昌路陶陶酒家覺其酒味濃郁菜香
適口吾 兄雅量素洪朋輩均以劉伶稱之請於明晚六時
駕臨陶陶一飲幸勿爽約爲禱此致

明倫先生

弟童郁文手啓 月日

二三 答 覆（一）

敬覆者劉伶以酒爲命人多稱之弟雖愧乏劉伶之才然恰有

劉伶之癖辱承 寵招當來奉陪也此復

曾華先生

弟費文品手覆卽

二四 答 覆(二)

逕覆者劉伶雖多才究不若禹聖之可法邇來爲酒所困非但
銷耗光陰且亦戕賊身體戒已多日矣有違 台命尙祈諒之
是幸此復卽頌

曾華先生刻佳

弟文 品謹覆卽刻

二五 贈 物(一)

茲奉上粗點兩匣敬祈哂納是幸

同光先生

艾國藩手奉

二六 答 覆

蒙 賜貴鄉名產感謝莫名按該物係 貴鄉異品定饒風味
誠下啤酒之絕好佳肴也弟欣喜之情殆難言喻肅此鳴謝順
請

伯屏先生台安

沈國章謹覆 月日

二七 贈 物（二）

今着人送上芽茶兩罐點心四盒此係鄉土微物聊表寸心務
祈

晒納爲禱

東鄉先生啓收

弟曾玉林拜上月日

二八 答 覆

惠賜芽茶糕點自係 尊處著名物產風味之美可想而知弟

之口福實在不淺專此道謝即請

正倫先生近安

弟東鄉義鞠躬月日

二九 贈照片

茲奉上敝舍闔家照片一幀明知俗陋之容難見 大雅然聊作紀念或無不可耳敬祈 晒收存念爲荷此上

子健先生

弟沙同壽手上月日

三〇 答 覆

仲穎老兄鑒拜領 潭府合攝照片一頁不勝感謝 貴容無不畢肖敢不永永保存以作紀念專覆即請

台安

弟汪有齡謹覆月日

三一 借 錢（一）

敬懇者茲有急用乞假銀幣拾圓如蒙

慨允即交去手帶下准於本月二十一日奉還決不爽約此致
橋本學兄惠鑒

弟吳融再拜月日

三二 答 覆

子華我兄大鑒 示悉茲交來人奉上大洋拾元至祈 察收
有無相通乃人情之常區區此數何足 望懷此復順頌
文祉

弟橋本堅一手復即日

三三 借 錢(二)

適有要需請暫假銀幣若干准於週後奉趙決不有誤叨在
知交必荷 金諾祈交來手帶下爲感此致
偉陶仁兄台鑒

弟汪思濟手泐月日

三四 答 覆

示悉茲交 尊足帶上洋若干元正即請 查收區々希勿
介懷是荷此頌
伯舟老哥刻安
弟宋鈞培手覆月日

三五 借 書（二）

易齊先生鈞座敬啓者日前趨 府拜訪見 足下有郭沫若
氏所著甲骨文研究一書該書爲一名著弟亟欲一閱茲擬向
足下一借不悉可否如蒙 俯允弟當加意珍重且現方閑
暇一星期內即可閱畢奉還也專上即請
崇安
李中道謹叩月日

三六 答 覆（一）

逕覆者接誦 手書已悉 足下所借之書謹以遵 命奉上
惟弟仍須應用敢請在下月十日前行 擲還是荷此覆即
頌

仲道學兄日祺

弟宋士驤手覆月日

三七 答 覆（二）

逕覆者函示所借之書適已借出不克應命尙乞諒之一俟還
來當即送上可也專覆順候

近祺此上

仲道先生

弟宋士驤謹覆月日

三八 借 書（二）

清水先生函丈現在通行語體文章據云非看白話小說不可

憶及

高齋牙籤滿架小說必多乞

檢一二種借下參看未知可否肅此奉商即祈

示復敬請

教安

學生平山博約謹上 日

三九 答 覆

白話小說之最佳者莫如水滸傳次之紅樓夢儒林外史亦好
今先檢交水滸一部待看完時再來掉換可也此復即訊

學安

清水董三白 卽日

四〇 借 物

茲遣价趨前謹借某某等物數件用畢即當歸趙決不污損希

交原手帶下是荷此致

仲賢先生台覽

弟李鈞寔拜上月日

四一 答覆

來條讀悉所假某物數件統已交 貴价奉上矣惟因舍間下
週亦有應用故務希於五日後 擲還爲盼此請

孝力先生晚安

弟鵬 程拜啓月日

四二 還書籍

逕啓者曩承 惠借之書頃已閱畢茲謹奉趙并致謝悃揣上

順請台祺

仲賢先生

弟鈞 寔手上

四三 索還書籍

雨生仁兄同學足下別後

起居無恙否念々日前

携去日用百科全書一部如已用畢請即
擲還因頃有一事須備查考也此布敬頌

文安

弟 田中善吉上言 月 日

四四 答 覆

田中仁兄如晤前假之書早當歸趙乃適因抱恙遂致遺忘誤
兄檢查深爲抱歉茲將原書奉還敬祈

檢收是幸肅復即頌

近祉

弟 張 裕謹上 日

附日用百科全書一部

四五 造訪不遇

欲圖良晤不意來時不巧正值 公出前者奉託之事務請格

外 分神俾得早日成立是荷匆匆留字順祝

君文我兄康吉

弟 江川渡啓留 日

四六 答 覆

昨承 枉顧失迎爲歉 尊囑之事時刻在心惟刻下尙無機

會容緩設法以副 雅命此復即頌

江川我哥近祉

弟 賈蔚上復 日

四七 約人看戲

謹約者大新舞台新來名角柳蕙芬色藝俱佳聞今晚准演天

女散花尤爲拿手好戲

閣下如有興致弟當與該舞台預定坐位恭候

駕臨此上

谷村仁兄偉鑒

弟謝東山拜啓 日

四八 答 覆

謹覆者柳伶色藝不遜梅郎天女散花一劇出自維摩詰經弟
久欲往觀一爲參證承

邀准去奉陪此復

少安我兄大鑒

弟谷村梅一手啓 即日

四九 約人看戲

今晚三星舞台由尙小雲及譚富英出演傑作玉堂春及定軍
山 足下如有興致弟當預定座位恭候 駕臨也此上

乾九先生

弟吳楚梁手啓某日

五〇 答 覆（二）

尙譚兩名伶弟前在平留學時曾往觀劇數次果名不虛傳今夜登台想必客滿弟準於九時前趨前奉陪惟破費之處殊爲不安此復

津源硯兄

弟李逢初即覆

五一 答 覆（二）

譚尙二伶之唱作信屬爐火純青惜弟以刻患目疾亟須靜養違 命之處尙祈鑒原此復

津源仁兄

弟李逢初謹上即時

五二 失約道歉

伯奇先生啓者昨日日本應邀約趨詣奈以臨行之際忽有意外
要事發生以致失約抱歉良深敢請 鑒原是幸專上即頌
台安
汪宗樸謹上 日

五三 問人行期

聞 足下言歸究竟何日起程望即 示復以便躬送微物二
色并希 晒納此請

萬鵬先生行安

弟坂本義行謹啓 日

五四 答 覆

俟將經手各事料理就緒即行起程約在本週土曜耳恕不到
府面辭 厚貺謝々敬復

坂本仁兄先生

弟陸有道謹復 即日

五五 介紹友人

敬啓者茲介紹稔友 某君於 足下諸祈愛照是所至禱肅
此即請

哲欽先生近安

余華龍手上月日

五六 介紹朋友

哲欽兄鑒茲有敝友某君現充某々洋行襄理久仰
閣下渴欲一見特爲介紹務希
推愛賜見爲荷此上即請

台安

余華龍謹上月日

中篇

信函文例

一 約人相會

作新仁兄大鑒許久不見聖念良多近維

興居安吉爲頌無量啓者茲定於五日下午四時謁

府晤談未識有暇否否則尙祈

指定相見確期幸勿

枉駕顧我草此奉約即請

近安

弟祝家瑜謹啓月日

二 答覆

東旭我兄左右多日未晤彼此望念正復相同既蒙尊約準於是日下午四時在舍恭候

辱臨面叙一切此復順頌

文祉

弟李振華手復卽日

三 約人會面

嘯辰先生台鑒久思御

李未得瞻

韓企慕

高風無時或釋刻因有要事須與

台端覲面接洽惟未悉何時得暇是以未敢倉猝走謁尙希見示以便遵往是所至禱肅此敬叩

勛綏

樓允梅謹肅月日

四 答 覆（二）

詠梅先生大鑒接奉

台函誦悉

執事擬於日內

枉教曷勝欣幸茲定於本月二十日下午四時在舍敬候

台端務乞准時

惠臨是荷專覆順頌

日祺

錢劍秋拜覆月日

五 答 覆（二）

詠梅先生左右頃奉

朵雲囑件敬悉惟弟刻間公私冗繁奔馳無暇

台端見訪希於星期日上午

駕臨鄙寓面叙一切爲荷專此敬覆祇頌

嘉綏

錢劍秋手覆月日

六 約人飲宴

希民先生閣下茲訂於本月四日(星期五)下午六時在敝寓潔

盃候

教屆時務請

光臨並乞先行

示復爲盼此上即頌

時祺

黃選璋謹上月日

七 答 覆（二）

品堂先生台鑒逕啓者接奉

大東藉悉本月四日下午六時 賜宴辱承

寵招欣幸無既屆時自當趨赴

盛筵藉聆

雅教專覆順頌

日祉

彭淵恂謹覆 月 日

八 答 覆（二）

品堂先生台鑒接奉

大東辱承

召宴曷勝感幸惟以是日適有他事不克抽身奉陪殊爲歉歉

茲特專函奉覆並鳴謝悃諸希

原諒爲荷

彭淵恂謹覆月日

九 答 覆 (三)

品堂先生惠鑒頃奉

手示敬悉一是叨蒙

厚愛寵召殷々本擬應 命即日晉謁

崇堦惟比日以來公私蝟集分身不克有負

雅意抱歉良深方 命之處尙希

見諒是荷謹此佈覆即請

台安

淵 恂手覆月日

一〇 約友酒叙

子玉老兄左右小別一週想多

康豫謹約者前與同人偵得南京路冠生園樓上設有食堂專作粵菜味美價廉且極清潔請於明日下午六時到該處酒叙幸勿爽約爲禱專上即祝

幸福

弟 鄒 鵬謹上月日

一一 答 覆

敬復者羈旅申江久食包飯真箇有負此腹矣諺云吃在廣州則粵菜之美不問可知屆時奉陪定不落伍也一睽此復
秉庸仁兄大鑒
弟 趙子玉拜手 月日

一二 請客飲宴

驢甫仁兄如晤小別數日想望爲勞近維

公私佳勝定符頌忱是慰弟前在新新酒樓飲啖數次覺其烹調得術酒味亦佳茲特定製一席請于月之五日下午六時屈駕降臨藉圖暢叙是禱是幸專邀即請

近安

弟費文品敬白月日

一三 約請春宴

振聲大兄青鑒燕剪裁花鶯梭穿柳萬紫千紅正是春光爛漫時也擬於月之十五日聊備薄酌邀集二三知己在敝齋一叙屆時早乞

駕臨俾席間可暢聆

雅教曷勝盼禱之至肅此奉訂並頌

時安

弟嵇 毅拜啓月日

一四 答 覆（二）

辱承

寵召敢不奉陪屆時謹當趨擾

華饌並聆

雅教也肅復即頌

一世先生禔安

弟李 炳謹覆 月 日

一五 答 覆（二）

一世老兄台鑒敬覆者頃承

寵召本擬趨陪奈因近患腳氣步履維艱碍難前往有負

隆情至深歉仄端此敬謝諸祈

鑒原順頌

台祺

李 炳肅覆月日

六四

一六 約友同行

奇峰仁兄左右別來數日想

多康勝也前聞

閣下於月底月初將有天津之行未知吉時選定否弟處適有

公務亦須北上倘

容附驥則幸甚矣此上即頌

旅安並候

回示

弟 郭啓明拜言月日

一七 答 覆

暉東仁兄有道接到

賜書無任忭躍如此長途正苦寂寞如得我

哥携手同行不但朝夕受

教且託

福庇多矣歡迎歡迎鄙意一俟天津丸開抵上海即行登輪尙有數日耽延可面商一切也專復即請

刻安

弟何夏雲謹復月日

一八 改期同行

文輔仁兄偉鑒幾日紛忙未能走謁近維

貴體康強

潭居安吉爲無量頌敬啓者漢口之行原約後日動身現擬提早一天訂於明晚上船請即

預備一切爲盼勿上順頌

文安

弟野崎駿平恭肅月日

一九 答 覆

楊駿我哥惠鑒接到

手書讀悉一是弟處自前次約定之後即已備齊行李提早一日亦無不可遵于明晚同上輪船不誤專復即祝

道綏

愚弟程樸洵謹復月日

二〇 求寫喜聯

鐵恨先生有道敬懇者前於趙府喜堂得見

墨寶欣羨奚如茲有同事錢濟之君於本月二十七日結婚撰就一聯敬呈

斧政並懇

大筆一揮光生四座是幸是禱肅請

撰安

愚晚鄂 森頓首月日

附呈紅箋裱對一副

二一 答 覆

呂弓同學足下前承

雅囑代書喜聯一副勿々寫出自慚拙劣惟在

知友之間不容推託只得猷醜耳茲爲奉上即希

查收並頌

近好

齊鉄恨手泐月日

二二 託友招股

子明先生大鑒 弟新近發起日華公司專營貿易基本金十萬元計分千股每股百元

閣下交遊素廣登高一呼必多應者務乞分神代爲招致是禱此上即頌

籌祺

弟周之茂拜泐月日

二三 答 覆

敬覆者頃接

台函囑爲招致股東共營某業至賀即請

示知預定計劃俾便宣傳一切俟有成績再當隨時奉達也此覆即祝

仲安先生財安

弟任仁發上覆日

二四 問詢開市

敬啓者昨聞

寶號已經籌備就緒將在最近期間先行交易但未識正式開張吉期擇於何日希即

示知附呈賀聯一副並祈

察收此上

小棠先生台鑒

駱士雄手肅月日

二五 答 覆

公略先生大鑒敬覆者敝號開張日期尙未擇定一俟擇出必當具柬奉達承

賜對聯寫作俱佳益令小號增光矣肅此道謝即請

台安

朱世偉鞠躬 日

二六 問在家時刻

知行老兄台鑒敬啓者茲有關於編輯雜誌事項欲與
足下商談擬於明日下午自四時至五時半之間前來奉訪未
審此時能否在 府一候因知
足下日無暇晷即貿然造 府恐適 公出故特先函奉詢尙
祈迅即 示知爲盼專上即請
大安

丘卓屏謹上月日

二七 答 覆

醒亞仁兄雅鑒敬覆者頃接
賜函關於編輯雜誌事項

足下擬就教舍間已悉明日下午弟當遵

命恭候敬請屆時

光降是盼專覆即頌

台安

李漢平謹覆月日

二八 問動身日期

逕啓者聞

足下已定赴日留學且不日即將東渡聆悉之下歡忭莫名不
悉

足下究於何日起程敬請

抽暇示知爲荷專此奉詢即請

冬芳先生近祺

謝景山謹啓月日

二九 答 覆

逕覆者此次赴日留學本應早日致函奉告奈以終日瑣事纏身一無暇晷以致遲延至今今茲反承

下問殊深惶悚之至弟已定於本月十八日搭上海丸東渡行期促迫不克面辭已覺歉仄如再稍存客套則更使弟不安倘蒙

不棄時賜教言則受惠多矣專覆即詢

子高先生近好

盧開生謹覆 月 日

三〇 問 耽擱日期

茲啓者頃聞大駕已來本埠不悉約有幾日之耽擱弟因與足下久未晤面擬作一夕之談敢希即速見示是荷勿此即

頌

仲達先生旅祺

瞿 銓謹肅月日

三一 答 覆

茲覆者弟因有要事與舍親接洽故於日前來埠現已大體接洽完畢惟弟尙擬盤桓數日約於本月中旬始行歸去
足下如能於後日

屈駕過談敬當在此恭候弟亦擬於日內趨前拜晤草々奉覆
餘俟面罄順問

紹傑先生近好

藍 仁手覆月日

三二 問 勾 留 日 期

岳僧先生鑒頃聞漢口 某君已於日前來滬寄居

尊府弟因有要事欲與彼當面接洽惟不悉彼在滬勾留幾日費

神煩請立即示知爲荷專此草々不盡順頌

台綏

嚴大覺謹上月日

三三 答 覆

敬覆者頃接

手書敬悉一是某君本定於本月十五日離滬返漢但因諸事大體業已辦竣或較原定日期早一二日返漢亦未可知再者彼在上午九時以前必不出專此奉覆即請

新農先生台安

鄺南庸手覆 日

三四 問友旅寓

晚翠仁兄閣下久未通信不知

近況何似念々昨聞 村上先生已經來滬欲一晤談恨未悉
其駐址知與

閣下接近請有以示我也此上順頌

春禧

弟張 澤拜啓 月 日

三五 答 覆

善孖我哥左右頃奉

惠書至荷

垂念並承

詢問 村上先生旅滬地址憶其抵埠之初曾住新亞大旅社
流連數日即赴南京待其返申再當報告

閣下也先此奉復即祝

近安

愚弟江川春水謹覆 日

三六 問輪船出口日期

甯紹輪船公司執事先生大鑒茲啓者請將 貴公司甯紹輪船下次自上海開往甯波之日期示知並請將頭二等船票價目一併示復無任感荷專上順請

台安

卞攻天謹啓 月 日

三七 答 覆

攻天先生台鑒茲覆者頃接昨日手書敬悉一是敝公司甯紹號下次自上海開往甯波之出口日期係本月六號下午六時至於船票價目頭等爲六元二等

爲三元茲將本月份各輪船出口日期一覽表附奉一份乞
檢收是荷專此覆頌

台祺

甯紹公司售票處啓

三八 託帶衣服

聰華仁兄大鑒日昨趨謁暢談甚快並悉

執事因公赴津不日北上茲遣僕人送上衣服一包欲乘尊
便懇即帶交旭街亞安公司敝友楊君堅金此物本擬郵寄
因體積稍大付郵似不甚便有勞

左右實出不情叨屬

知交容緩圖謝專此奉懇順候

旅祉

弟趙克恕拜啓月日

三九 答 覆

心如學兄足下接到

手示並衣服一包待抵津時當即趨訪貴友 楊君面遞一切區々效勞勿客氣也此復即頌

文祺

弟林聰華手復月日

四〇 託買書籍

墨泉學兄惠鑒遠達

芝宇時切葭思邇維

興居集祜爲頌弟自到行謬掌書記汲深綆短隕越堪虞憶及滬上各大書坊出有尺牘多種茲匯大洋拾元敬乞擇暇代爲選購若干隨時寄下種々

費神無任感荷專函奉懇即請
學安

弟司徒錫謹啓月日

四一 答 覆

震東仁兄左右達

教數月渴想方殷接奉

惠書欣知

康吉至慰來款囑購尺牘待懇

關先生指出善本即行入市

購買奉寄也先此上復即頌

文祉

學弟陳守謹復 日

四二 介紹會見

聞主席閣下敬啓者茲有敝國內務省參事官大岡隆一遊歷

來華前往

貴省甚願趨謁

崇塔藉聆

大教囑爲介紹函請

執事屆時會見

指教一切爲荷端此奉懇順頌

勛祺

川越卓吉啓 月 日

四三 約訂會見

宋部長閣下敬啓者茲有日本銀行團代表正金銀行董事小田萬吉現已到滬擬於日內趨謁部長藉表敬意囑爲介紹即請

執事何日有暇會見先期
賜示以便轉知遵往爲荷此上順頌

勛祉

川越卓吉啓月日

四四 約友接見

敬啓者茲有敝友某君久仰

令名欲圖識荆悉弟與

兄友善特囑介見孟浪造

府恐有未便故特商請吾

兄移駕來舍一叙以慰 某君平生冒昧上請祈即

台原是荷此致

理卿仁兄先生

弟朱義生拜上月日

四五 介紹朋友

理卿先生台鑒茲有敝友某君擬赴寧紹杭等處遊歷並欲趨謁

崇階藉聆

教益屆時務希

台端俯予接見指導一切爲感專此奉懇祇頌

勛綏

弟朱義生謹上月日

四六 介紹商人

何墨林先生台鑒敬啓者茲有某々公司之某君爲圖擴展事業起見不日將來貴處用特介紹敬請不吝 金玉時 賜指導是荷再者如蒙 介紹貴處同行之公司則尤爲幸甚也此

上順請

台綏

朱霞村謹上月日

四七 介紹同學

志汝先生台鑒逕啓者茲有敝同學 某君奉商工省之命赴貴國考察紡織業現狀到後敬乞在考察上予以種々便利不勝拜懇之至有勞

清神無任惶悚勿此即請

大安

熊野正平謹啓月日

四八 請寫介紹書

廣源先生台鑒敬啓者弟定於下月中旬動身赴平擬留一年研究國語惟弟之北上尙屬初次因知

先生交游素廣該地必多友好茲特不揣冒昧敬請

修函介紹以資聆教是所至懇專泐順頌

台綏

坂本一郎敬拜月日

四九 託友介紹

大同我兄惠鑒久聞 李君頌清與

兄至契此人品學兼優至可欽佩

足下能爲弟介紹與之一見否如蒙 許可即希

示復此上敬頌

文祺

弟陶鑄舜手上月日

五〇 謝介紹并贈禮物

敬啓者日前荷蒙

介紹於獎芥什先生所獲教益實非淺鮮此皆

足下之賜也頗感々々茲特奉上此間名產務乞

莞納是幸勿此餘不一一順頌

善述先生台綏

沈良驊謹上月二日

五一 介紹會見並贈書籍

少白仁兄大鑒暌違

樂範已易寒暑矣懷想

高誼無時或釋茲乘 遠藤先生西行之便附此奉候

興居並求帶上拙著實用商品學一部敬祈

檢收賜正是荷臨書馳切不勝依依恭請

近安不盡

弟中馬靖友謹上月日

五二 接書答謝

驥甫我哥如晤匆匆一別遂愈半年離索之日倍覺其長入夢之途彌增其遠昨迎遠藤先生拜奉手教敬知

近祉佳勝快慰奚如承賜大著祇領謝謝容沐手拜讀後再行請教一切也率復不盡即請

撰安

弟李學詩拜上月日

五三 答覆會見

川越大使閣下頃奉

台函以貴國東亞工業會社社長新井賢次遊歷來華欲圖晤

叙既承

介紹極所忻願即希

轉達於十一月十八日下午四鐘前來敝部以便屆時接晤可
耳手覆敬頌

勛祺

吳鼎昌謹覆月日

五四 託人轉約

昨談之件既非 某君爲力不可而弟又與之泛々望 兄爲
我先容並祈代約至某酒樓一叙時間日期悉聽 尊便或轉
商某君後 賜示亦可此上

崇廣仁兄

弟王石林拜干月日

五五 覆託轉約

承囑轉約 某君弟當代達 仰慕之誠惟未知 某君肯惠
然而來否耳 一俟得有確實消息當再專函奉 聞可也此覆
鴻儒仁兄 弟李叔和謹覆 月日

五六 再函懇託

某君與 兄至契弟又叨 愛甚深倘得 鼎力週旋諒無不
肯之理尚希 極力維持勿致呼籲無門是盼是禱再上
崇廣仁兄 弟王石森再拜 月日

五七 覆再懇託

語云君子成人之美弟雖不敢妄以君子自許然 兄既一再
吩咐敢不唯命是從不過 某君性頗固執竊恐人微言輕有
誤尊件耳非弟有意推脫也幸勿誤會千萬千萬再覆

鴻儒仁兄

弟叔 和又覆 月日

五八 三函懇約

語云謀事在人成事在天設有不成弟自喚福薄耳何敢怨及知已一再瀆懇尙希 諒我不情蓋亦出於萬不得已也特此並候

崇廣仁兄好音

弟石 森謹上月日

五九 覆已約妥

前函未能即時奉覆想必懸々也弟遵 命往晤 某君雖費盡唇舌然幸託 洪福已蒙允准矣惟一切詳情均待面商弟已斗胆代訂某日在某酒樓會晤矣尙希預定座位以便叙談爲盼特覆

鴻儒仁兄

弟叔 和上言月日

九〇

六〇 謝代約并告定座

屢費 清神心頗不安雅託知交故敢煩瀆今幸蒙 玉成矣
此恩此德沒齒難忘也弟已遵 命定妥座位屆時尙祈 屈
駕陪來弟當潔樽肅候不勝感盼之至此呈
崇廣仁兄

弟石 森拜覆月日

六一 歡迎參與紀念典禮

逕啓者本月廿日(星期六)爲本院創立卅七週年紀念日茲定
於該日下午二時舉行祝賀典禮敬請

光臨並盼

示覆是幸專上順請

台祺

東亞同文書院謹啓月日

六二 答 覆（二）

東亞同文書院公鑒逕覆者辱承邀赴

貴院參預典禮感激莫名屆時當即如 命趨教此覆即頌

公綏

姚思孝謹啓月日

六三 答 覆（二）

東亞同文書院諸執事先生均鑒逕覆者蒙邀參加祝賀典禮
本擬遵 命奈因已有先約不克如願殊爲悵々敬乞 鑒原
是幸此覆順頌

大安

姚思孝手覆月日

六四 歡迎參觀運動會

周楚生先生台鑒茲啓者 敝院將於十二日(即星期日)上午十時起舉行春季運動大會茲將入場券寄上屆時敬請
闔第蒞臨參觀是幸專約順請

台安

東亞同文書院學友會謹啓月日

六五 歡迎參觀展覽會

啓者定于五月一日至六日(即星期一至星期六)每日午前九時至午後三時在敝院研究部大廳開中國經濟資料展覽會
歡迎參觀敬請屆時
駕臨指教爲禱此致

周大瑤先生

東亞同文書院研究部啓月日

六六 歡迎參與畢業典禮

敬啓者本院訂於月之七日(星期日)上午十時舉行第卅三次畢業典禮敬請屆時

駕臨指導一切爲荷此上

李夢占先生

東亞同文書院謹啓

六七 邀人聽講

敬啓者敝院定於五月六日下午三時敦請 梁漱溟先生在本院禮堂講演題爲鄉村建設運動之理論與現階段屆時台端如能蒞臨無任歡迎之至謹上即頌

施季英先生台綏

東亞同文書院教務課啓 月 日

六八 通知遷移

茲啓者弟現已遷至施高塔路二三號雖係茅屋而環境尙屬

幽雅他日過此千請 枉道一顧是荷專此奉告並頌
日祺

鄭伯奇手上月日

六九 催回信

逕啓者一日致函所詢之事迄未 見覆不悉何故此間因急
於得知故請見函立即 示覆爲盼專上祇頌

大安

胡 風謹上月日

七〇 催寄所購物品

逕啓者五日曾奉上一函懇請購寄胡適文選內附書價及寄
費國幣參元之匯票一紙迄今未見該書而又無示復莫名所
以此信到後乞即 覆示爲盼專上即頌

大安

沈鴻儒謹上月日

七一 索閱書目錄

商務印書館諸執事先生台鑒啓者請將
貴社最近圖書目錄及中國美術年鑑樣本各寄一份不勝拜
懇之至專上順請

台祺

今應瓊太郎手上月日

七十二 購書

中華書局台鑒逕啓者茲擬購

貴局最近發行之儒學概論及實用運銷合作各一冊附上書
價及寄費國幣六元二角五分乞

檢收書請立即由郵寄下是荷專上順請

台祺

田知花信量謹啓月日

七三 訂報

申報館台鑒素仰

貴報議論純正消息靈通茲欲訂閱一份以資研究務請逐日
寄送某處報費隨函奉大洋 元祈
檢收爲盼專此順頌

台祺

中西正雄啓 月 日

七四 訂閱雜誌

逕啓者茲匯上國幣六元訂閱東方雜誌一年自第卅六卷第
一期起請按期寄至左開地址爲荷勿此即頌

台安

北平崇內船板胡同二號

福岡重德

七五 報告訂閱滿期

逕啓者

尊訂華語月刊現已期滿即至本年六月份爲止
如蒙

續訂請將刊費匯付爲荷此致

朱英卿先生

同文書院研究部謹啓月日

七六 請批評著作

李少卿先生敬啓者茲另由郵寄上拙著中國時文精釋一冊
敬乞

惠存如蒙在 貴報介紹新書欄內
賜以批評則更幸甚矣專此順請

撰安

七七 收 條

弟孚畋謹上月日

茲收到某物若干件無悞此覆即呈
板橋先生台覽

李宗仁手上月日

下篇

一 通知遊歷

少圻先生台鑒久未晤

教渴念何如現因有公務須往

尊處遊歷擇定本月七日首途預期十五日可到

貴地屆時定當趨謁

台端藉抒積愫並聆

雅教先此函達即請

近安

二 通知遠行

胡毓傑謹啓月日

逕啓者弟現奉公司之命於本月中旬將由西比利亞首途赴歐美各國視察各友好處本當親往辭行奈以事務羈身不克如願茲特修箋奉告務乞

原宥爲禱專上

亨仲先生左右

胡汝鼎謹啓月日

三 便道訪友

同甫仁兄閣下久隔

鴻儀時殷螳慕比維

近祉綏和爲無量頌弟碌碌如恒毫無善狀頃奉行中委託將赴河南調查商業倘得便道漢臯定當晉謁

崇塔敬聆

雅教也先此佈達順請

台安

愚弟施拜林謹啓月日

四 答書歡迎

仲華仁兄左右正深懷念忽接

賜書誦悉我

兄將作汴洛之遊如肯溯江而上直抵漢臯弟當江岸歡迎

招待一切何日

出發尙乞先期

示我爲盼專此奉覆佇候

德音即頌

近安不一

弟王道平謹覆月日

五 旅行報告

雁
輔資

二位仁兄仝鑒江干握別忽將一週頃于下午三時始行

登陸溯自開船以來風平浪靜並無暈眩之苦感荷

福庇莫可喻言先此奉達諸容續報此上即頌

近安

弟影山巍謹上月日

六 答 覆

步漢先生左右昨接

惠書敬悉我

哥一路順適安抵津門至慰至慰此後尙望不吝金玉時錫
珍聞是爲至盼勿復即頌

旅安

愚弟
程靳
樸鴻
洵仝覆
日

七 旅行參觀

廠長先生閣下久仰

鴻名徒殷蟻慕茲來

貴埠欣幸何如生等留學滬上今將四載

碩畫宏猷聞之欽佩謹擬於本週金曜日上午九時到
廠參觀藉聆

雅教萬祈

不拒下情

指導一切是荷肅上敬請

台安並希

示復不備

上海東亞同文書院學生

坂口一郎
上川孝彦
芝文彦
高橋一明

同啓月日

八 謝友招待

岫僧老兄台鑒逕啓者此次旅游貴地辱蒙

厚待感激良深別後復往各地視察於十日下午始安然返

校乞勿

繫念專此鳴謝兼以奉告即詢

刻安

余祥琴謹上

九 遊歷道謝

昭明先生台鑒此次薄遊

貴地幸接

光儀指示多端獲益靡淺並蒙優待禮遇有加種々隆情感
謝無既別後道出漢口上海各地於八日回抵東京沿途
福蔭水陸平適專泐道謝並請

台安

弟植原悅次謹啓 月 日

一〇 謝人招待

立三先生惠鑒前承

教益快慰調飢并蒙遇事

招呼萬分優待桃花潭水難喻深情受

惠之餘惟深感謝弟於瀕行之際依戀莫名蓋以

東道情長令人樂不思蜀別後水陸兼程甫於昨日抵此

雖舟車勞頓而精力尙佳足以奉慰

綺注此後如逢

公暇務祈

時惠數行以通情愫專肅道謝并請

台安

弟姜卿雲謹啓月日

一一 歸來道謝

振儒先生校長閣下前遊

貴埠備聆

教言感佩之情與時俱積溯自上月二十八日乘船下駛一

帆風順月之一日即抵上海言念此行託

福叨

惠沒齒不忘爰修寸箋敬申謝悃即請

道安諸維

台照不一

學生

坂上芝高

川口文孝

一孝

郎彦彦明

同拜啓
月日

一二 託友招待

靈甫老兄台鑒前月下旬曾有數行奉寄想達

記室久矣茲有敝行同事堀井勳君因公入川道出

貴埠特爲介紹

台端敬懇

撥冗招待指導一切是荷專此奉託即祝

近綏

弟杜光祺謹啓
月日

一三 答託招待

孟博我兄閣下比有數行上候

近祉旋接

手教敬稔

動定隨和

公私順利足慰遠懷承

示貴友入川道經敝處待其抵埠時定當竭誠歡迎招待一

切不負我

兄所託也先此奉達復頌

公祺

弟徐 驥拜復 月 日

一四 託友照拂

修齋我兄大鑒自違

道範迄今三載緬懷

舊雨寤寐爲勞每於公報中得

榮擢之信爲之喜慰而道阻且長不得趨前道賀祇增悵望

耳舍弟赴首都晉謁

崇堦仰冀

照拂知

先生故人之誼定不薄也臨書翹切不盡欲宣敬頌

台綏

弟柯廷楨頓首月日

一五 宴請客商

黼章先生閣下此次

大駕來申辱蒙

光顧不勝歡迎之至弟本應陪往各處遊觀略盡東道之誼祇以行務拘牽不得追隨

左右以暢情懷至歉至歉明日午後六時略備小酌假座四馬路梅園酒家務請

屈駕光臨俾得奉

教一切張新伯與松根盛兩先生亦同在座所有市貨行情可以互相討論也千祈

勿却佇待

登音專此即頌

旅安

弟大平久謹啓月日

一六 辭謝宴請

永之先生我兄閣下適承

寵招榮幸何似本應趨陪末座藉以暢聆

教言而口福未修適爲俗冗所絆不克赴約

盛意心領改日當趨

前面謝也

大東附繳肅佈敬請

台安

弟張黻文謹上月日

一七 公忙失讌

煥堂仁兄左右向者

台旌過滬上未能以一杯飲

足下於梅花香影之下

足下固公忙弟亦爲俗冗所繫誠兩誤矣而春來風雨連朝
及夕又復擾之人歟天歟竟無以解也正擬春晴招諸友作
竟日懽

足下又鼓楫而去目斷風帆神與俱遠愧亦與俱遠矣幸祈
台原不盡敬請

道安

愚弟吳是仁頓首月日

一八 追候友人

子良老兄有道前承

枉顧 敝行得領

聲欵殊慰飢渴弟以俗務羈身未得即時奉候良用闕然昨
晚五時趨詣舍館據云

先生已於早晨七時乘船歸去矣在

老兄來去翩然固爲省事但使地主將何以爲情哉想沿途

山水足供

清娛仁智所樂當不虛也臨書馳繫不盡欲言敬頌

旅祉

弟許有仁謹啓月日

一九 不辭而別

仁甫我兄執事旅遊歸來欣讀

手教至承

錦念感愧兼之弟此次赴申勾當公事預定時日本爲兩個
星期不料某日晚間忽接電報因有急事匆匆召回以致言
旋言歸不遑告別重累

故人勞駕枉顧至今思之歉仄曷勝肅函請罪並祝

近祺

弟張仰松謹啓月日

二〇 歸後道念

樂齋老兄台鑒兩地猶几席耳匆匆一別杳若山河翹望

停雲倍深勞結前者偶至申江爲俗冗所困片刻不得自由

乘間欲一覲

清揚乃竟未能適願旋爲敝行促歸遂亦不復走晤殊怏怏

也我

兄近祉如何公退之暇作何消遣念念此上敬祝

文祺

弟奚肖若謹啓月日

二一 別後致函

月庵我兄青鑒別後將逾一月輒有雜索之思

足下抱經濟之才入佳勝之地想更添許多興會耶和愼公
司道平先生爲吾校前輩品高學博待人熱誠不但可以
言交直當師事之矣

足下得暇可往相會馳切馳切敬祝

近綏

弟吳是公謹啓月日

二二 與友叙別

子玉
健峯

兩位仁兄聯鑒相處一年辱承

不棄匡我不逮使弟所得切磋之益較之得於學校者尤多
知己雖不言謝然今茲別矣能無黯然秋間或仍來此良覲
匪遙特此奉

聞以當話別祇候

暑安

弟濱中靜平謹啓月日

二三 復友話別

安甫仁兄尊簪一載磋磨彼此皆獲其益他山之效誠如

君言惟相處既久條爾言離良足感喟但冀吾

兄早日來此是爲至盼日內即

起程否如尙有三五日勾留或可再圖把晤也此復順頌

裝安

弟趙城璧同啓
司徒克強

二四 約友公餞

大野學兄足下判袂以來又經多日近維

興居安吉爲頌無量頃聞窗友竹村兄將赴美留學定

於下月上浣即行前往如此壯舉想

足下已有所聞弟擬邀同近密諸友在其動身之前公餞行
旌圖一歡叙未識

尊意如何倘承

玉諾即希

示如爲荷專此順祝

近綏

弟鄭嗣源謹啓月日

二五 答允公餞

來之學兄左右相離咫尺以碌碌稀候

起居正深歉仄適接

雲翰敬謚

佳祥承約公餞 竹村學兄赴美留學如此盛會極表贊同
即懇

偏勞籌備一切如何之處敬希隨時

示知爲荷專此復請

文安

弟袁景唐謹上月日

二六 賀友遊學

雄萬學兄足下江干送別忽經一週想海中風景蒼茫淨遠與
天俱碧自與此間元規塵上處處汚人者大有異耶我兄抱
經世之才遂乘風之願此次東渡深造求精三年有成一飛
冲天可預賀也弟處一切如常乏善可述肅修寸牘敬請
學安

弟殷汝熊謹啓月日

二七 贈送土物

樹庸學兄足下昨從敝郡帶來土物黃橘數十斤雞絨麵十餘包橘因天熱大半腐壞尙有少數可食者麵則甚新鮮臨食時用開水沖之其味甚美旅行攜帶尤便用特專呈敬請笑納物微非敢言敬聊以將意而已此布順請

時安

弟 錢選青謹具 月日

二八 答 覆

伯萬學兄賜鑒承

惠嘉珍敬謹拜領雞絨麵風味絕佳橘則分贈數枚於德山君俾得共嘗遠方異品適家中寄來福神漬係製自東京者亦頗適口茲特附呈兩罐聊以佐

饌區區之物不足爲報也肅此鳴謝順頌

近綏

弟潘震亞謹啓月日

二九 送行餽贈

振東仁兄閣下久未把晤渴念殊殷頃聞

台從不日北上本欲薄具杯酒略申祖餞之忱但恐我
哥檢點行裝不遑及此茲送上糕點兩匣水菓兩籃敬祈
莞納是幸此上即請

行安

愚弟亞傑謹上月日

三〇 答謝餽贈

亞傑我兄文儿倉卒出行不遑走別正在惆悵忽見來使

頌到

華函兼

惠貴物使弟却之不恭受之滋愧矣感謝感謝容抵北平再
爲報告勿勿上復順頌

近祺

弟趙文海謹啓卽日

三一 往來餽贈

湘浦先生閣下月前瞻對獲聆

德音仰

景宇之高深見

用情之誠摯敬服私衷固無已也又承

渥賜下賁祇領增慚而其次日

台旌遄發不及走謝深爲悚惕茲寄油畫兩幅上塵

青鑒固不足一笑也敬乞

存納肅候

近安不具

弟朝 信謹上月日

三二 贈友摺扇

千里我哥青鑒前在滬濱過承

欸待握別之後靡日不思茲託郵鴻奉上摺扇一柄草草學

書不成體勢爲

兄清暑弗敢藏拙即請

哂收兼祈

教正敬頌

夏祺不備

弟巢紀梅頓首月日

三三 答謝贈扇

仲潔我兄左右滬江別後相隔月餘郵鴻飛來承

賜手書并雅扇一柄開緘香發入座風來具徵相愛之深扇面艸書龍蛇競筆極得右軍神髓得之如獲瓊寶即當什襲藏之傳諸來世不但奉揚

仁風已也感佩之餘無以爲報謹肅一言以謝耑復敬請

暑安不一

弟莊振甫拜啓月日

三四 求人寫字

蘇戡先生台鑒昨晤

鴻儀備聆

雅教私衷感佩楮墨難宣前祈頒賜

墨寶一節已蒙

慨允茲特敬備宣素四紙恭呈

台端無論眞草隸篆務希

椽筆一揮以光蓬華爲禱肅此即候

道安

大內暢三拜上月日

三五 謝贈法書

一江先生台鑒久隔

鴻儀時切懷念昨承頒到

墨寶一幀詩態清新筆姿挺秀捧閱之餘曷勝欣感敬當置

諸座右朝夕觀摩以資模範專此奉上並佈謝忱順頌

勛祺

三六 詰問失約

壽之仁兄大鑒久久不見

足下正欲把手晤言一傾積悃昨奉

華箋訂于兆豐公園午時相會展讀之下歡忭奚如遵即排遣各事按時前往滿擬池畔亭中快談半日何期有約不來令人幾穿望眼

君信人也今者何自

君約之而躬自失之耶抑別有事故不遑命駕歟弟種種猜慮殊不自安敢請

擇暇有以示我勿勿上候藉頌

日祺

弟振生 上月日

三七 答述失約

振生我兄左右昨午失約正自怨艾忽承

手示重累

故人愧甚罪甚弟於昨日晨間起身觀望竊喜萬里無雲寒
溫適度正好隨同

步趨遊覽名園不料旅館茶役喘息而來告以友人梅君現
患急症弟即隨之奔去照料一切請醫配藥忙亂半天幸喜
此公得救可保無虞不覺日之云夕過勞我

兄悵望矣失約之責實無可逭先此道歉容日負荊順祝
時祺不一

弟周延齡謹復日

三八 託人薦事

蔭堂先生閣下 啖

教以來時殷嚮往比維

財祺駿發企頌奚如弟自敝行歇業後賦閑至今將盈半載
索居沉默無聊已極因念

閣下交遊素廣見愛又深如有相當工作爲弟所能勝任者
務乞

鼎力培植俾得枝棲至弟平素操持想蒙

洞鑒倘有成就自必勤慎從事決不有累

台端統費

清神不勝感愧肅此奉懇即請

籌安

愚弟陶一民謹上月日

三九 答求薦事

玉亭仁兄如握展誦

雲函至荷

錦注藉謐

貴行停業吾

哥賦閒索居情形弟所素悉夫以

閣下之品行學問向爲儕輩之所欽崇苟有機緣無不樂爲
推轂惟近二年來商業不振微行生意迥不如昔只由各部
職員維持現狀進人機會渺不可得擬就耳目所及者四處
張羅待有確切時機再行奉商一切也先此上復即頌

近綏

弟曹霖復上月日

四〇 託友轉薦

秀宣學兄青鑒久未通訊想

丰采較前尤勝矣弟僻處鄉曲每思從

諸君子之後一擴眼界不特可補助學識亦藉以漸增閱歷
無如才德淺薄機會難尋荏苒至今徒呼負負竊念誼興洋
行 青山先生與

閣下舊屬同舟借重

鼎言諒不惜塔前尺地也肅函拜託敬祝

近安

弟世昌謹上月日

四一 答易轉薦

子誠仁兄台鑒得誦

賜書快如覿面所

囑一節弟本義不容辭況吾

兄聲譽隆隆尤爲彼方所欽佩現成作合爲力匪艱弟已滌
硯裁箋令飛鴻寄書而去好音不遠再奉

尊聽他日破浪而來還望

不時教我先此奉達順頌

近綏

弟裘岫雲謹上月日

四二 答允轉薦

子誠仁兄台鑒自違

雅教已經年矣得覩

賜翰快何如之所

示近狀頗有出遊興致惟青山先生與弟實非膠膝且又人多似鯽不易安排成敗利鈍非敢逆料頃已函達某友請爲先容稍暇當專往晤譚冀圖報命先此復頌

近祉

弟裴岫雲貢言月日

四三 推薦會計

逕啓者持函來者某君係弟多年知友爲人樸實忠於職守長於簿記文筆亦佳且更具有辦事之才茲特引薦前來務乞錄用是所盼禱再者萬一如

兄處無法安插則請

轉薦爲荷專此奉託順頌

憶園老兄財祉

林彪謹上月日

四四 推薦職員

仲和先生大鑒河梁分袂荏苒半年遙睇

吉光相思曷已敬維

福履麻嘉爲頌敬啓者敝友林君才幹老練人品極佳曾在
正昌洋行擔任職務近因該行閉歇遽賦閑居祇得另覓一
枝展其抱負用敢介紹

台端敬請

推情錄用倘得駕輕就熟當不致覆餗貽譏也專此奉懇祇
頌

籌安

弟屠坤範拜啓月日

四五 薦用僕役

叔益我兄台鑒，自違

丰采幾度月圓春樹暮雲相思何極邇來

興居何似甚念敬懇者茲有舊僕義順人性忠勤堪供

驅策工役中如有缺額可以安插乞

爲補用此感弟實均之專函奉懇順頌

台綏

弟焦鼎恩謹啓 月弟

四六 謝薦夥友

爽秋先生大鑒前承

推薦趙君來號服務數月以來勝任愉快且人極樸實可稱
少年老成一切事務深資倚賴渠對於各處方言亦能嫻熟

現將令其至粵莊一行深感

先生介紹美意特此馳書鳴謝專肅即頌

台綏

閔憲章謹啓月日

四七 答友託事

藥圃大兄足下前接

來教如相晤譚自我

兄去後凡有衷情無可告語始見平日手足之誼與他人不同不如此離索不知也念甚念甚

尊囑之事寢食不忘惟因時世艱難諸務緊縮未得一相當機會耳不盡欲言順候
興居並

闔宅康豫不旣

弟志 豪謹上月日

四八 致賀升任

竹君先生閣下自別

鴻儀久疏雁訊頃傳

鵲語喜報

鶯遷以

執事長才榮升要職公家旣慶得人交遊亦增光寵自此扶
搖直上一舉冲霄營業前途何可限量弟聞信之下喜不自
勝猥以道阻且長未遑亮趨謹肅蕪牋恭賀

升喜並請

籌安

弟葛之覃謹啓月日

四九 謝賀任職

澤民我兄大鑒頻年契濶時念

興居頃辱

賜書備承

寵賀感甚慚甚弟樗櫟庸材濫竽商界經驗既少才識又疏
現值就任伊始諸冗畢集頭緒紛繁終日憂勤深虞覆餗倘
承

不棄務乞

時賜教言以匡不逮專此肅謝不盡觀縷並請

台安

弟董邦幹謹啓 月 日

五〇 致賀開幕

伯龍先生經理閣下接讀

華箋欣悉

寶號於本月十日正式開幕敬維

新猷大展

景運隆開爲無量頌夫漢皋爲全國中樞稱通商巨埠水陸
四達工商蔚興加之

執事諸公富于經驗敏而有方營業前途定操勝券弟等兩
地迢遙不克躬預

盛典歉仄奚如茲寄喜幛一端藉申賀悃即祈

笑納是幸專此佈上祇頌

財祺

弟
浦森今
正本村
安郎男
同啓

五一 謝賀開幕

吉宸先生大鑒日前敝行開始營業辱承

執事遠道而來指導一切并蒙

寵賜隆儀拜領之餘感愧交集唯當時事務繁忙招待未能周到實深歉仄忝在

知己諒勿見責日來生意尙稱發達知關

錦注特以奉達專肅燕函藉申謝悃順頌

台安不一

信隆洋行石田俊三謹啓月日

五二 慰問病人

冠羣先生台鑒茲啓者聞

足下因患感冒臥病在牀至爲懸念尙希

善自珍攝並祝早占勿藥專此即請

痊安

陳必奎謹啓月日

五三 答 覆

紫垣先生大鑒敬覆者辱荷

賜書慰問賤恙感激不盡叨幸此次係因略受風寒而醫生亦謂如無他症併發則二三日內即可復原敬請勿念是禱專此奉覆即頌

台綏

許 超謹覆月日

五四 慰問病人

建勳仁兄偉鑒前聞

貴體違和至以爲念刻經多日想

吉人天相自必早占勿藥矣本當親自走謁奈以俗務羈身只好具函代候耳此頌

健安

弟葉少英上月日

五五 答 覆

敬覆者賤軀感受風寒大病數日自請西醫宋君診治現已漸就痊可惟精神尙未復元還須調養數日辱承

詢注曷勝感謝此復

克昌仁兄大鑒

弟述 功鞠躬 日

五六 慰問病人

冠羣先生台鑒逕啓者聞

足下已於日昨入院就醫懸念殊深弟固知足下日來略欠

安適但以爲不日即可痊癒故爾疎於趨候深以爲歉請假書當即代爲轉致至於公司方面經理曾囑轉告足下謂目下正係清淡之際諸事暫擱無妨故可不必懸念儘請專心靜養今晚下行後當即前來拜謁專此順請
痊安

陳必奎謹啓月日

五七 答 覆

紫垣先生台鑒敬逕者辱蒙

惠書慰問賤恙感激莫名幸自入院以來病勢已日見減輕但精神仍時覺不濟據此間醫生謂尙須數日始可出院弟朝夕盼望能早日離院即來公司俾得與兄聚晤也經理前敬乞代爲致意是荷勿此覆頌

大安

弟許超謹覆月日

五八 慰問病人

仲安仁兄如晤別來數日思

子爲勞刻間

貴恙自注射血清大有起色甚慰甚慰此間公務已求經理先生寬予假期以便

安心調養勿藥之喜旦夕可占並乞將近日

情形略示一二俾釋下懷尤爲盼幸此布即候

痊福

弟詹一綱謹啓月日

五九 答謝問病

大廉我兄執事接讀

惠函備承

拳注感謝莫名賤恙幸得中原先生每日診治刻已漸就痊可近來胃口頗健不復覩食作嘔矣夜間亦能安眠惟時憶及請假過多有誤公事便覺腦筋震動暈不可止故日來祇求寧神一氣不敢設想一事諸承照拂鐫感無既稍遲數日當趨謝也此上復頌近綏

弟錢仲安謹上月日

六〇 病癒出院

殿光先生台鑒茲啓者病中屢承慰問心感無似叨幸現已完全告癒業於昨日出院敬請釋念知荷綺注先函奉告不日當再趨前踵謝也勿此順頌

台綏

盛治華謹上月日

六一 慰問隣近失火

植之先生大鑒茲啓者據本日報載昨夜貴處隣近大火諒尊府亦當受驚不小懸念之至用特趕速修函奉問專上即頌

大安

黃秉章謹啓月日

六二 答 覆

秉章先生台鑒敬復者辱承

賜書慰問感甚惟舍間因與起火處相隣接故不幸已遭延及但舍間大小俱各安然無事堪以告慰勿復順請
日安

彭祖培謹覆月日

六三 答 覆

秉章先生台鑒逕復者奉讀

手書昨晚舍間隣近失慎辱承 慰問感激良深在起火之初一時驚慌萬狀莫知所可幸而不久即告熄滅得以安然無事誠屬得天之助以致祝融未得肆虐也專此奉復乞恕草々順詢

近佳

彭祖培謹覆月日

六四 慰人營業虧耗

致祥先生閣下頃奉

手書敬悉

寶號爲大局牽連虧耗頗鉅承

示經此挫折恢復頗難於心不無鬱鬱竊思盈虧乃商家常事雖虧耗之際難免無聊然以

閣下大才槃槃只須一反手之勞不難規復原狀況現在市面蕭索百業俱艱不獨一家如此務請

寬懷以待倘

鴻風一順自可從心所欲矣敝行生意平平無可報慰

左右端此奉復即請

籌安

弟鄒 玉謹啓 月 日

六五 慰問失意

季龍仁兄閣下月前

賜教極深欣慰乃於蒸蒸日上之際經此一挫在

介介者未免難堪然塞翁失馬安知非福固不得以成敗論英雄也況我

兄品高學茂年富力強天厄斯人正欲降以大任若謂偶然失意即至嗒然非大器矣

閣下勉乎哉特此奉慰藉問

籌祉

弟賈 毅拜上月日

六六 答謝慰問

士傑仁兄左右塵事碌碌未暇箋候近因變出倉卒得荷

賜慰足見

熱腸古道迥異常令人悲憤之餘爲之躊躇起舞弟德薄能鮮年來事多倖獲正深危懼似此一落千丈不特可磨鍊

志氣抑且增長閱歷敬承

深情來相勸勉弟即不才豈不知奮此後當策駑駘以報

故人之期望焉肅函拜謝敬頌

近綏

弟德雲敬上月日

六七 賀年(二)

抱誠先生大鑒流光易逝又報春回近維

履端晉吉

潭第迎祥定符頌忱爰修數行敬賀

新禧虔請

年安不一

蔡伯毅謹上

六八 賀年(二)

三陽開泰萬象回春恭維

凌霄仁兄新祺廸福

綏祉安和遙瞻

吉采忭慰奚如弟在外碌碌無可告慰茲托鴻便率泐尺素
奉賀

春祉即祈

朗照不宣

鄧嘉炳謹上

六九 賀 年(三)

蔚霞先生閣下嶺梅報春葭灰噓暖敬維

履端燕樂

泰運鴻開翹首

崇塔傾心遙祝敬賀

新禧虔請

年安不一

愚弟盧開生謹肅

七〇 賀 年(四)

夢達仁兄足下條忽年華又更歲序近維

德與時新

永膺戩穀爰修尺素敬賀

履端虔請

年安諸希

荃照

愚弟鮑昌勳謹肅

七一 新年致候

瑞堂先生閣下睽違

雅教轉瞬半年每憶

清標惟仰看屋梁月色耳邇者陽生律轉景物增輝敬維
老兄福履與時並茂年會在即把晤想亦不遠弟處託

庇輒安可釋

錦念肅上敬候

新祉臨池依依

弟謝仿林頓首月日

七十二 致賀夏節

蔭喬仁兄大鑒憶自春間話別以來曾幾何時忽而艾酒凝香
蒲劍懸壁又值端陽令節矣敬維

駿業雲蒸喜

昌辰之集瑞

鴻圖日煥欣

卓午之延釐

芝型在望藻頌允符弟居諸碌碌辜負年年慚拙鳩之徒勞

笑蠅頭之空逐惟望

時錫教言藉匡不逮則受惠多多矣專此布達謹賀

午釐祇頌

財祺百益

弟鍾行素謹上月日

七三 暑期致候並約同遊

仰山我兄賜鑒暑氣炎酷

尊居俱邱壑之美好山好水不減銷夏灣頭羨甚羨甚弟僑

居滬上頗厭塵囂當此烈日炎炎不但揮汗如雨而且應酬繁多不遑寧處苦矣苦矣昨有張君自普陀歸來盛稱風景清奇令人聞之神往擬待我

哥來時攜手同遊一滌塵濁也匆上祝

福並請

潭安

弟薛篤弼謹上日月

七四 致賀秋節

桂軒先生閣下蟾光迅邁自夏徂秋遙望

芝輝時殷葭念際此金飆薦爽之時正值

朗月澄懷之候敬維

財偕時茂

業共秋高引領

台端定符私祝弟鹿鹿無能嘆駒光之虛度魚魚如昨慨蚊
負之堪虞鱗鴻有便尙祈

惠我數行以慰思存至所感盼肅泐敬賀

節禧順請

秋安

弟魏文達拜啓月日

七五年節送禮

昭九先生大鑒駒光易駛歲增又更薄具菲儀聊表賀意尙乞

笑納是荷專此敬請

年安

弟瞿誠謹啓月日

七六慶賀喜事

子泉仁兄台鑒敬讀

大東欣悉七月三日爲

令郎結婚之期屆時

門闌集慶

簞瑟騰輝遙企

潭衢倍增忭頌弟夙叨

雅愛理宜早去張羅惟是羈於職務不克如意是歉茲上菲

儀敬希

哂納端書仲賀藉頌

喜祉

弟韓家政謹肅
日月

七七 賀友生子

子綱仁兄閣下企想正殷欣承

手告敬悉吾

兄有弄璋之喜至爲忭慰

嫂夫人分娩以後調護起居想必安適茲寄上金鎖一掛即
乞

哂納容得暇時當再趨賀也專頌

大喜敬請

儼安

弟羅時濟謹上月日

七八 答 覆

誥俟我兄惠鑒接到

華函並承

頒賜金鎖茲爲小兒懸掛項間匍匐拜謝憶及胡適之先生
詩有樹本無心結子之句現在他既生來我便負有教養之
義務處於斯時斯世深長思之能無戒懼乎肅此鳴謝敬頌
近綏

愚弟 陳立謹啓

拙荆附筆拜謝

七九 弔唁親喪

實甫老哥哀鑒展讀

大訃驚悉我

哥痛遭大故咸爲揮淚繼念逝者已矣不可復生而大事當
前不宜毀滅尙望

節哀保重一切爲要弟因山河攸阻未克執香躬奠菲儀瑣

瑣敬祈

代爲致祭是荷喪務告終還請

命駕出遊爲是久承

見愛敬貢一言並候

孝履

弟譚毅公謹啓月日

八〇 答謝弔唁

毅齋先生賜鑒敬拜

唁言存歿均感自慚涼德至先嚴遽爾棄養乃蒙

不棄遠道

賁以厚賻並承

拳拳撫慰潭水千尺無此深情足見

垂愛之周摯矣肅致謝忱敬頌

時祉

弟龐秉利再拜月日

八一 謝人幫助

天裔老兄青鑒敬啓者日前辱蒙

賜助叨幸事情得以圓滿解決此次之事設非

足下予以援手則決不能有若是之好結果

隆情厚誼唯有銘感五中而已本擬立即趨前道謝奈以瑣事羈身不克如願用特修函道謝專此即請

台安

弟龔同揆謹啓月日

八二 酬勞致贈

海嘯先生大鑒前以交涉貨款問題屢費

錦心無任欽感此事現已漸就解決皆由
鼎力成全之賜茲特薄具菲儀聊伸謝悃區々之微不足以
報

厚誼藉表私忱而已尙乞

哂納是荷專此敬請

台安

戈劍農謹啓月日

八三 饋銀酬勞

健侯先生台鑒日昨專誠趨謝適逢

駕出未及晤談敝處與某々交涉一節糾葛已深極爲棘手
幸承

執事熱心從中排解始能了事感荷

高誼匪言可宣謹奉菲敬一函聊備車馬之費非敢云報也
得暇容再趨詣肅此鳴謝敬請

大安諸希

愛照

何孝祥謹啓月日

八四 答 覆

達峯仁兄大鑒日昨

台駕遠臨有失迎迓歉仄奚似頃奉

手教承

惠兼金愧不敢當此次

尊處與某々交涉一節某不過稍効微勞何足掛齒乃旣勞

玉趾復荷

隆儀殊令受者益形慚愧耳手此鳴謝順請

台安

沈 健謹啓 日月

八五 向友請教

世平我兄閣下自別

丰采數月於茲比維

餐衛咸宜

公私佳勝爲頌無量弟服務有暇每讀周秦諸子惟其文理
艱深往往力索苦思不得其解昨閱莊子內篇中有數條亦
徧加參考終不得其奧旨久佩我

兄對於此種書籍研究有素用敢條錄原文敬祈
指教倘得

大筆注明俾開茅塞則受益感恩無涯際矣條文附書函尾
肅此順頌

文祺

弟正 民拜啓 月日

八六 朋友問候

仲輝仁兄足下判袂以來忽將匝月暮雲春樹無日不神馳左
右也近維

公私協吉欣以爲頌弟碌々如常毫無進益幸賤軀粗安可
慰錦注耳

尊處業務如何辦公時間外還有讀書作文興致否念々肅
上敬頌

時祺

弟虞碩夫謹上月日

八七 答 覆

廉蓀我兄大鑒捧讀

華箋備承

錦系衷心感佩莫可喻言弟自到行以來每日服務時間僅足八個鐘點退班之後除研習當地語言外於商業概況尙須留心體查故於文學作品只好暫爲擱置我

兄進步如何暇乞

惠示一二專復即祝

近綏

弟李 夢謹復月日

八八 敬候師長

夫子大人函丈自違

化雨切慕

春風敬維

道履安和

絳帷集祐定符下頌昔時受業倖列門牆備承

善誘循循頓開茅塞奈因學年有限只得畢業回國自九月
上旬至南京敝國大使館任事一切妥善如常惜未能親聆
教益深以爲憾務乞

時加訓誨實爲萬幸肅此敬請

崇安

受業吳之屏謹叩月日

八九 致先生述久別

夫子大人函丈院中一別倏已歲更月移矣想我

師之事業文章當益較前彪炳也每一念及不禁神馳絳帳回溯彌殷生奔衣走食處々爲家行蹤旣無一定職業又時變遷是以對於愛我厚我之

師長直乏善可陳也屢思稟候而愧於下筆職是故也師母大人福體想必康健世兄妹諒都進步甚以爲念也師座能於著述教授之餘時錫訓言則幸甚矣專此謹叩道履

生吳光鼎百叩月日

九〇 覆 函

仲新同學青鑒數年相聚一旦睽違恐雖曠達亦不無戀々也我弟年少有爲胸懷大志年來飽經世故自必練達人情從此直上青雲顯揚有日矣可喜可賀某日函已收閱矣知我

弟情懷篤厚遠念頗殷雖係師生間之恒情然亦不無感情獨
摯也感甚謝甚亦希音問時通共獲切磋之益則幸甚也賤體
內子健壯兒輩亦托庇清吉可勿遠念特覆並候
進步

學兄呂世芳手覆月日

九一 致前輩道景仰

與齡前輩鈞鑒夙耳

鴻名時深燧慕恭維

履祺康吉

著述宏多定符私頌昨在某雜誌得讀

大作某篇語之扼要句句切實洵爲救世南針益深欽佩之
忱有仁資性愚魯聞見淺薄雖有立雪坐風之願惜乏升堂

入室之緣前聞某公云

執事雖名聞宇內而提掖後進有逾飢渴於此更使我仰
馬帳而傾心矣不揣愚陋敢乞踵

府聆

教之良機如獲

俯允即祈賜示來件幸勿揮之門外則幸也專此即請

鈞安

晚邵有仁再拜 月 日

九二 覆 函

醉翁君英鑒手書已誦悉矣前晤某君盛稱

閣下學行有夙而胸懷若虛年少老成洵足當之而無媿也
早擬一接

丰采徒以緣慳相左今幸相遇當不至交臂失之矣拙著讀
陋思想自多乖忤過蒙稱許愧不敢當明日午後命駕有暇
否亦希示知俾候

文旌而慰饑渴幸甚專此布覆並候

時祺

金鶴年謹覆月日

九三 商請修稿

寒江先生尊座極擬趨謁多因事阻近以同人集議擬創辦協
和公司籌股之初固以章程爲要乃被推起草辭之不獲竊
思公司規則條目滋繁援引稍訛事後即難解決况欲宣布
大衆尤費斟酌閉門造車殊不敢自矜合轍也
先生斲輪老手揮毫落紙自必沛乎有餘然概乞

捉刀於情似亦不順用將初稿錄副仰求

繩削則修飾潤色不難

點鐵成金矣冒昧相商伏祈

允諾特此拜懇敬請

台安

愚晚 范 剛拜啓 月 日

九四 致謝修改作品

仰周先生台鑒敬覆者前懇

繩削論文一則承在忙中抽暇賜予

斧正心感無似拜讀之下覺已盡脫俗陋而成一堂堂之大

文矣不勝欣喜有瀆

清神惶悚之至不日當趨前面謝肅上順請

台祺

俞傳鼎謹啓
月日

(附 錄)

帖子式例

一 請 帖

(一)請酒帖

茲於四月八日下午六時潔樽候

叙

徐立之謹訂

席設大東旅社木蘭廳

謹備菲酌候

光

姚思孝謹訂

地點

本寓

時間

二月十五
正午十四

日正午十二點鐘

教

月之日(星期)午時潔樽候

謹訂

席設

(二)結婚請酒帖

一七四

諏吉陽曆五月二十四日午刻爲三男厓完嫻敬治喜筵恭請

闔第光臨 錢增榮載拜

禮堂設靜安寺路馬
霍路西海軍聯歡社

厓字瘦鍊

謹詹戊辰夏曆二月初四日爲小女元茹于歸廬江潔治喜筵恭請

光臨 勞綱章載拜

闔第均此

席設上海三馬路惠中旅館

謹詹夏曆十一月十九日爲舍姪樹森授室敬治喜筵恭請

闔第光臨

李 志 祥 鞠 躬

恕邀席設五馬路正
豐街口鴻慶樓

謹詹夏曆十一月十九日爲姪孫樹森授室敬治喜筵恭迓

魚

軒

歸隴西蕭氏率媳許氏檢衽

席設五馬路正
豐街鴻慶樓陽

謹奉家長命擇於陽曆十二月十八日下午二時半舉行結婚
禮敬治喜筵恭請

闔 第 光 臨

彭 家 農 躬
黃 新 鳳 鞠

禮堂
喜筵 設北四川路虹口大旅社(六時入席)

(三)祝壽請酒帖

五月六日午刻爲 家嚴七秩榮慶潔治桃觴敬請

闔 第 光 臨 陳 煥 謹 肅 拜

新發

席設河南路新新酒樓

(四)子女彌月請酒帖

六月十五日午刻爲 小兒阿興誕生彌月潔治湯餅候

光 王 述 晉 肅 拜

字子昇住蘇州胡同八號

(五)移居請酒帖

一七八

五月十三日移居治酌候

光

馮汝強謹訂

席設北京路七十六號新宅

二 催帖

敬請

駕臨三馬路大舞台東首

小有天園菜館座酒叙勿延是盼

月日

約

敬請

先生駕臨大馬路

東亞酒樓三層廳

一敘務祈早降幸勿見却是盼

月 日 點鐘

敬約

即請

君駕臨四馬路西首大新舞台隔壁

致美樓第 號雅座一敘務祈

速光勿却是幸

月 日 鐘點

約

三 訃文

(一)

急啓者敝居停

純甫先生於國曆七月十七日未時壽終茲擇於國曆六月

十八日巳時大殮特此奉

聞

吳宅帳房謹啓

(二)

不孝男 桂蔭 罪孽深重不自殞滅禍延

先考

前清例贈登仕郎 諱信 號省三 陳府君 痛於民國廿六年夏曆九月初八日寅時壽終正寢 距生於同治三年二月初八日酉時享年七十四歲 不孝男親視含殮即日遵禮成服 叨在

世友戚

誼哀此訃

聞

擇於夏曆九月

十一日接三

十二日發引

孤子陳桂蔭泣血稽顙

期服孫德善臨泣稽首

喪居廣渠門外官莊東頭路北

四 謝 帖

謹 領

謝

陳重威率子協贊再拜

敬 使
力

送禮式例

一封套

非

敬
壹元

錢初豐謹具

「非敬」二字無論何事均可寫用。非者薄也。乃自謙也。欲分別事類。則婚嫁開市遷居及子女誕生之彌月。周歲並一切喜慶

之事均可寫用賀敬。一切壽禮用祝敬。送人出行者用躋敬。或程敬。逢遇時節用節敬。度歲用年敬。弟子於師之初見用贊敬。以上諸事均用紅紙封套。紅紙簽條。如在喪禮則用奠敬。或楮敬。於安葬時則用窆敬。於喪事在北京則用米色淡黃色封套。藍色簽條。至周年則用紫套紅簽。今見滬上所用者。於顏色略有不同。幸各地紙店均有成品出售。可按事探詢店中。購而用之也。如死者尙有直系親屬之尊長在堂。則不用藍簽而用黃簽。滬上之淡粉簽套。亦可應用。茲將各禮應用之文字列表於後。

二 婚禮贈物分類表

名目	附註	物品	附註
賀儀	以禮恭賀之意	喜幛	金字綢質或緞呢等
卷儀	結婚行合卷之禮故名	喜聯	紅箋墨字或硃箋金字
燕喜	喜慶之事	祝詞	五色紙黑字
花儀	送嫁女買宮花之用	祝歌	五色紙黑字
妝儀	送嫁女妝飾之用	花燭	大對蠟燭
粉儀	送嫁女買脂粉之用	喜酒	成壘紹酒
添箱	送嫁女添入奩箱之用	鞭爆	旺相百响均可配用
奩敬	送嫁女妝奩之用	針帶	綢貨或各絲織品
墜袖	尊長贈送嫁女於花紛之外益以銀錢之禮	衣料	綢緞尺頭

喜敬	男女家通用	化妝品	脂粉香水等類
賀敬	男女家通用	妝飾品	梳篦瓶盒等類
見儀	初見小輩用	美術品	圖畫雕刻織景等類
會儀	初見平輩用		
覲儀	以贊相見之意		

三 喪禮贈物分類表

名目	附註	物品	附註
奠敬	以銀錢送喪儀之普通名稱	輓詩	白紙黑字或書布帛
弔儀	以銀錢致弔祭之禮	輓文	白紙黑字
賻儀	以銀錢助喪費之用	輓聯	白紙黑字或竹布絹帛
唁分	對於年幼者用之	祭筵	至親或團體公送

帛	敬	助衣帛之用	祭	幃	金字綢緞呢等質地
楮	敬	代燒紙之用	花	圈	時新禮物
香	儀	代燒香之用	香	燭	未殯前至親之禮物
軸	儀	代掛軸幃之費	楮	燭	紙錢蠟燭
代	幃	代製祭幃之費	錫	箔	摺錠所用
代	筵	代喪祭席之費	楮	錠	紙錢箔錠
祔	儀	送入祠堂之禮	冥	鏹	紙錢或箔製銀錠
綿	敬	送出殯之禮	笄	紙	笄裝紙錢
筵	敬	送安葬之禮	笄	鏹	笄裝鏹錠
吉	分	送除服之禮	官	弔	香燭紙錠等共爲一盤
登塋之敬	送安葬				

四 雜事送禮名目表

一八八

名目	附註	名目	附註
贐儀	贈送出行用	代湯	生產小孩三天用
程敬	同前	彌月之敬	小孩滿月用
餞敬	同前	周歲之敬	小孩周歲用
桃儀	祝賀壽誕用	晬盤	同前
麪儀	同前	添麟之敬	生產男孩用
祝敬	同前	代印	男孩滿月用
晉壽之敬	同前	代鈴	女孩滿月用
追慶	祝冥壽用	准印	男孩滿月用
贊敬	拜見師長用	准鈴	女孩滿月用

脩敬	送師長束脩用	開張之敬	商店開幕用
節敬	節期送禮用	啓幕之敬	同前
酬敬	酬謝用	懸壺之敬	醫生掛牌用
喬儀	移居用	懸匾之敬	醫生掛匾用
喬遷之敬	同前	菲敬	各事通用
興隆之敬	造屋開店與分家通用	禮券	各事通用

國立南京圖書館

昭和拾參年九月拾日



昭和十二年五月廿三日印刷
昭和十二年五月廿七日發行

定價銀壹元八拾仙也

著者

上海東亞同文書院
福田勝藏

發行者

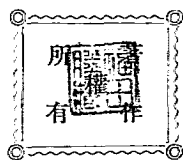
東亞同文書院支那研究部
福岡峰太郎

印刷人

上海海寧路三〇〇號
蘆澤多美次

印刷所

上海海寧路三〇〇號
蘆澤印刷所



發行所

上海徐家匯虹橋路一〇〇號
東亞同文書院支那研究部

